

沿線地域の交流に寄与

- 常磐自動車道全線開通後に、沿線自治体の入込客数は約1.3倍に増加。
- 震災記憶を伝える沿線の復興関連施設における入込客数も増加傾向。

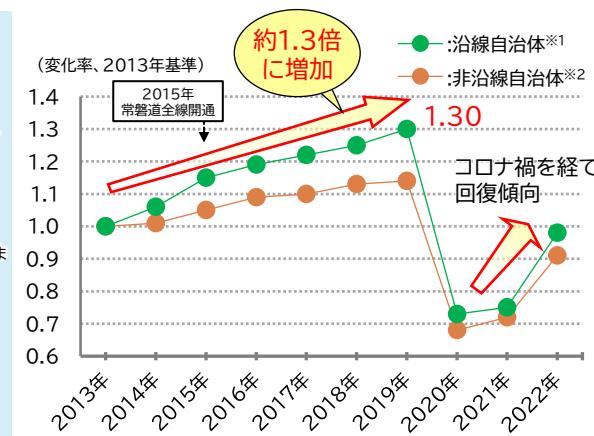
沿線地域の主な観光施設・復興関連施設



【資料】「3.11伝承ロードふくしま」HP、宮城県HP、福島県HP、観光いばらきHP



沿線自治体の入込客数の変化率



【資料】観光統計(宮城県・福島県・茨城県・埼玉県・千葉県)

※1 5県(宮城県・福島県・茨城県・埼玉県・千葉県)のうち、常磐道沿線自治体。

※2 5県のうち、上記以外の自治体。

※2020年～2022年:新型コロナウイルス感染症対策期間(緊急事態宣言・蔓延防止等重点措置)が含まれる。

アクセス性の向上により
宮城県からの来場者が
増加しました。



観光施設の声
ヒアリング結果(2024年6月)

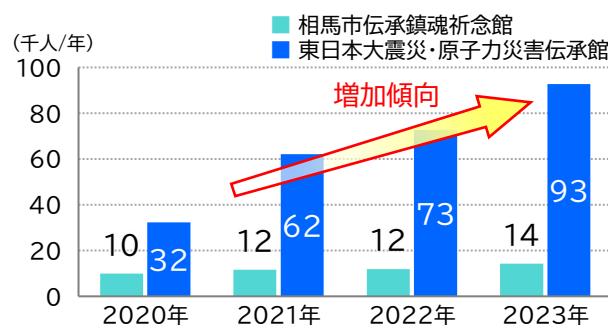


茨城県の入込客数の移動手段の約8割は自動車です。また約4割が首都圏からの来訪であることを考慮すると、常磐道によるアクセス向上が観光へ与える効果は大きいと考えられます。

復興関連施設による地域活性化

震災記憶の伝承・地域活性化の拠点として、被災地に復興関連施設が整備され、常磐自動車道全線開通以降、施設の入込は増加傾向。

主な復興関連施設の入込客数の推移



【資料】福島県観光統計

※復興関連施設のうち、観光統計データが掲載されている施設を対象に整理。

※2020年～2022年:新型コロナウイルス感染症対策期間

(緊急事態宣言・蔓延防止等重点措置)が含まれる。



東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者数は右肩上がりで、県内外から学校・団体での利用もある様子で、常磐道の役割は大きいと思われます。